

投票率は71・64%

— 前回選挙から 5・75ポイント減 —

今回の養父市長選挙は、佐々木憲二市長の死去に伴うもので、梅谷馨氏と濱道雄氏（60歳・八鹿町小山）の2人が立候補し、激しい選挙戦を繰り広げました。

投票は、1月30日午前7時から市内44カ所の投票所で一斉に始まり、即日開票の結果、梅谷馨氏が当選しました。開票は午後9時20分から八鹿文化会館ホールで始ま

り、両陣営の運動員や支持者らが開票の様子を見守りました。また、この模様は養父市ケーブルテレビジョンで生中継を行い、市民の強い関心をひきました。

「台風災害の復旧と復興」「行政改革」などが争点となった今選挙の投票率は71・64%で、昨年5月に執行された養父市長選挙から5・75ポイント減となりました。

養父市長選挙の開票結果

養父市長選挙の当日有権者数、投票者数、確定得票等の開票結果は次のとおりです。

- ▼当日有権者数／ 23,906人
- ▼投票者総数／ 17,126人
- ▼投票率／71・64%
- ▼有効投票／16,848
- ▼無効投票／2,788
- ▼持ち帰り・不受理／0

養父市長選挙開票結果

(敬称略)

当 11,068 梅谷 馨 (73歳、無新) ①
5,780 濱 道雄 (60歳、無新)
※選挙管理委員会確定

梅谷馨市長

1月31日に初登庁



まちづくりの決意を市職員に述べる梅谷市長

梅谷馨新市長は、選挙を終えた翌1月31日朝、職員の手を迎えられ市役所本庁舎に初登庁しました。

その後、市長就任式が八鹿公民館で行われ、梅谷市長は「第2代養父市長として粉骨碎身の覚悟で市政運営を進める。市民の目線にたつて、台風災害の復旧・復興や行政改革をはじめとする多くの課題に職員と一体になって取り組み、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めていく」と養父市政への考えを職員に述べました。

災害査定が終わりましたが、国・県の支援を受けながら、できるだけ早急に災害復興に取り組んでいかなければなりません。また、防災計画も早急に策定し、いざというときに備えなければなりません。

第二に、「地域の教育力を高めること」が重要と考えます。これは、幼児教育から学校教育、社会教育、生涯教育まで、教育の内容を充実させ、一人でも多くの有望な人材を育成するということです。現在、小学校の統合等を進めています。今後、財政状況も踏まえながら、教育環境とその中身の充実を図っていきます。

次に、「行財政の改革」です。常に効率の良い政治を行っていくことが、市民の皆さんへのサービス向上の大きな要因となります。市行政改革推進委員会の皆さんからの中間答申の内容を十分踏まえながら、市長だけではなく職員全体で考え取り組んでいきたいと思えます。

さらに、「商工業・農業・観光業の振興、若者定住」も大きな課題です。難しい課題ですが、皆さんからご意見をいただきながら、また私の行政経験を生かしながら、行政としてできる限りのことをしていきたいと考えています。

この他にも、「福祉の充実」も重要課題です。地域にある但馬長寿の郷や八鹿病院、保健センター等の施設連携を図り、保健・福祉・医療の充実に取り組みます。

これらの課題解消に向けて、市民の皆様のご協力をいただきながら、全身全霊で養父市政に取り組んでいきますので、今後ともご協力をお願いいたします。

梅谷馨市長の略歴

- ▼昭和7年1月3日生▼昭和26年3月／兵庫県立豊岡高等学校卒業▼昭和46年11月／養父町教育委員会委員に就任▼昭和47年10月／養父町議会議員に当選（以降当選5期）▼平成3年2月／養父町長に当選（以降当選4期）▼平成16年4月／養父市長職務執行者に就任▼平成17年1月／第2代養父市長に当選（任期は平成17年1月30日～平成21年1月29日）